事例３　肝硬変の治療中、合併症を発症したため、業務内容の変更などを行いながら、通院による治療と仕事の両立を目指す事例

<table>
<thead>
<tr>
<th>Cさん</th>
<th>治療の状況</th>
<th>企業の状況</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>病名</td>
<td>治療状況</td>
<td>企業規模</td>
</tr>
<tr>
<td>肝硬変</td>
<td>薬物療法</td>
<td>大企業</td>
</tr>
</tbody>
</table>

（1）事例の概要

ア　基本情報

Cさんは、従業員数が1000名超の製造業の企業に勤務する50歳代男性である。Cさんは工場内で製造ラインにリフトで部品を供給する業務に就いており、基本的には1人で作業する。リフトの動線上は作業者の歩道と交差する箇所もあるが、これまで事故を起こすようなことはなかった。

週5日勤務であり、夜勤もあるシフト制勤務である。健康管理部門には常勤の専属産業医1名、保健師1名がいる。

イ　両立支援を行うに至った経緯

Cさんは40歳の時に職場の健康診断がきっかけで糖尿病が見つかり、土曜日や平日休みを活用しながら近所の診療所で治療を受けていた。薬による治療に加え、食事指導も受けていたが、独身で自炊が苦手なことから外食に偏りがちであった。その後の診療所での治療中に非アルコール性脂肪肝炎（NASH）を原因とする肝硬変が疑われ、総合病院を紹介された。総合病院で検査を受けたところ肝硬変が進行していることが分かり、その後は総合病院で糖尿病と肝硬変の治療を受けることになった。しかし、総合病院は診療所よりも遠方にあり、また土曜日は休みであったことから受診しづらく、1年ほど受診できない日々が続いていた。

ある日、Cさんが出勤時刻になっても出社しないので職場の上司がCさんに電話をかけたところ、それが回らず要領を得ない状況であった。心配した上司がCさんの自宅を訪問したところ、失禁して倒れているCさんが見つけたため、救急車を要請。Cさんは病院へ搬送された。病院で肝性脳症と腹水貯留が確認されたため急きょ2週間ほど入院することとなった。退院後も生活の中で症状の改善が認められたため、主治医からは復職可能であること、ただし夜勤は避けたほうがよい、と話があった。

Cさんは夜勤をしないと収入が減るばかりか、長年リフト運転に従事しており他の業務への異動は難しいと感じており、仕事を辞められることではないかと心配になった。Cさんは、主治医から紹介された病院の医療ソーシャルワーカーに相談し、職場への相談方法について助言を得たうえで、所属長に相談することとした。相談を受けた所属長はCさん、産業医、人事部と話し合い、復職後の働き方について検討することとした。

（2）様式例の記載例

ア　勤務情報提供書　【労働者・事業者において作成】

Cさんと産業医、上司、人事部で今後の働き方について話し合った結果、通院への配慮や健康管理のためには必要な情報を、勤務情報提供書を通じて主医に意見を求めることがとした。特にリフト運転や通勤時の自家用車の運転の可否や、夜勤の制限が一時的なものかどうか等を確認することとした。
イ 主治医意見書【医師において作成】
主治医は、勤務情報提供書に記載されている内容を踏まえ、Cさんと仕事の内容や職場環境、復職に向けて悩んでいることについて確認した上で、勤務情報提供書に記載された質問内容を中心に、主治医意見書を作成した。
肝性脳症が悪化した場合の症状や判断の目安を記載し、必要であれば病院を受診させるよう協力を求めた。肝性脳症を起こした場合は判断能力が低下するおそれがあり、夜勤は可能な限り避け、リフト運転や周囲に誰もいない環境で作業することを避けることも記載した。

ウ 職場復帰支援プラン【事業者において作成】
主治医意見書を踏まえ、再度Cさんと産業医、上司、人事部とで話し合った結果、主治医の意見を勘案し、安全確保のためにリフト運転や夜勤は避け、また、通勤方法も自家用車からバスへ変更することとした。代わりに、これまでの経験を活かし、リフトの配車やメンテナンスの担当に配置転換することとした。復職後1か月は時給的な負荷を軽減するため、担当者から配車やメンテナンスの教育を受ける期間とした。
肝性脳症を起こした場合の山、Cさんの同意を得て、事業者から、「肝臓の病気の影響でいつもと違う行動や危険な行動をする場合がある。差別に気づいたら上司に伝えること」を同僚に説明し、協力を求めた。
なお、病院受診の間隔にあわせて2週間に一度、本人と産業医や保健師との面談を行うこととし、必要に応じてプランの見直しを行うこととした。

（３）その他留意事項
経過によっては、入退院を繰り返し、長期の支援が必要となる場合がある。あらかじめ、休みが必要なようになった場合の業務の調整方法や、出勤を認める条件について、本人と十分に話し合った上で決めておくなどの対応が望ましい。また、夜勤ができなくなることで収入が減少する場合もある。労働組合の共済会や健康保険組合の傷病手当金制度など、利用可能な制度等を労働者に情報提供するなどの支援も有効である。
事例 3（肝疾患）：勤務情報を主治医に提供

医療機関が確認する際のポイント

● どのような作業内容や作業負荷の仕事に従事する予定であるのかを確認
● 特に、作業環境や不規則な勤務の状況について、労働者に確認

● 通院のスケジュールを勘案して、有給休暇の利用で対応可能かどうか、労働者と確認

● 産業医が選任されているかどうか、職場での健康管理などの支援が可能な体制があるかどうかを確認
● 特に意見を求められている点について確認
  ● 肝性脳症などの労働者の病状と、業務内容や作業環境を踏まえ、必要な就業上の措置や配慮について意見を検討
  ● 判断力の低下などの症状が見込まれる場合には、業務内容が適度に制限されないように配慮した上で、労働者本人や周囲の安全確保の観点から必要な就業上の措置についても検討

● 記載漏れがないか確認
● 記載内容を踏まえながら、労働者にその他要望や不安の有無等について確認

主治医所轄
今後の就業継続の可否、業務の内容についてご意見をいただくための従業員の勤務時間の調整を何卒よろしくお願い申し上げます。

| 従業員氏名 | ○○○○ |
| 住所      | ○○県○○市○○町 |

| 職種       | 構内リフト運転手 |
| 職務内容   | リフトを運転し、製品の搬入・搬出作業を担当 |
| 勤務形態   | □常勤勤務 □二交替 |
| 勤務時間   | ・昼勤 8時15分～21時30分～ |
| 通勤方法   | 自動車・通勤時間： |

休業可能期間
弊社就業規則上、病気休業、産業災害による面倒にて、可否を判断します。休業期間中は給与支給、支給期間は同一休暇に規定

有給休暇日数
残15日間（半日単位）毎年1回に発生、

その他特記事項
常勤の産業医・保健師が下記の点について、ご意見をいただき、
1. 今後の通院の頻度
2. 家族の介護
3. 職場の状況
4. 休業の必要性
5. 通勤の可能性

利用可能な制度
傷病休暇・病気休暇
する際の様式例（勤務情報提供書）の記載例

労働者・事業者が作成する際のポイント

• 情報の提供・活用目的の明記が必要

• 現在の業務内容が継続可能かどうか確認する
  ために、具体的に仕事の内容を記載

• 復職の可否について主治医の意見を確認する
  に当たり、リフト運転や夜勤があること、1人
  作業であることなど、仕事の特徴を記載

• 病院や体調管理のために利用可能な有給休暇
  に関する情報を記載

• 必要に応じて新規付与のタイミングや付与日数、単位（1日、半日、時間単位）等を記載

• 労働者本人と話し合い、事業者や労働者が悩
  んでいること、主治医に相談したいこと等、特
  に主治医の意見がほしい点について明記

• 質問・相談する理由も記載すると、主治医は
  意見を記載しやすい

• 治療と仕事の両立のために利用可能な制度を
  明記
  （時間単位有給休暇、傷病休暇、病気休暇、時
  差出勤制度、短時間勤務制度、在宅勤務（テレ
  ワーク）、試し出勤制度など）

• 労働者が個が記載事項に趣旨がないかを事業
  者に確認した上で署名

• 主治医からの問い合わせに対応できるよう、
  担当者、連絡先を明記

生年月日 ○○年○○月○○日

造ラインに部品を供給します。基本的に一人作業です。

業務用の横断歩道もあります。

①機械の運転・操作
②電機の運転
③安全確認

17時00分（休憩45分、週5日間）
17時00分（休憩1時間、週5日間）

生産状況によって変動します。

時間まで、休日労働は土曜日、隔週で最大2回です。

15分

での欠勤が1か月を超える場合は、主治医意見をもとに
医学的な復職可能の判断を経たのち、人事部が復職の
職期間を最長で1か月です。

給与、株価手当金○％
名を支給開始から1年6か月まで

で取得可能

年間付与日数20日、有効期間2年

おります。社内で復職後の業務や対応を検討するため、
見守ってください。

期間・休日・休暇の受け取り方法。（受取にかかる時間
休日可否を検討するためです。）

 bucks状態や体調、至急受診が必要となる状況。

の運転、夜勤（）は可能か。

も、経過によっては可能となるか。

更に、協助状態を自覚が必要がある。

能か、復職直後は不可能でも、経過によっては可能と

など、運動強度はどの程度になかさか

（本文メモ）

株式会社

担当：連絡先：
事例3（肝疾患）：職場復帰の可否等について主治医

医療機関が作成する際のポイント

・人事部等の非医療職も関与することが想定されるため、可能な限り専門用語を避け、平易な言葉で記載
・産業医が選任されている場合は、情報を正確に伝えるために必要に応じて専門用語も使用する
・勤務情報提供書に記載されていた復職後の働き方について、現在の労働者の状況や治療の予定を踏まえ、復職についての検討が可能かどうか意見を記載

・勤務情報提供書「その他特記事項」に記載されていた質問
事項に対する回答を記載
・配慮や就業上の措置を記載する際、対応が必須のものか、望ましいものであるかを明確できるように記載
・入院または通院スケジュールを記載する際は、職場での配慮が得られるよう、記載可能な範囲で具体的に記載
・早期に病院の受診を促すべき目安があれば、具体的に記載
・規則正しい生活が送れるようにするために、治療や健康管理のために必要な事項があれば具体的に記載
・治療と仕事の両立支援に関する相談に対応可能である場合については、相談窓口などを記載すると、労働者や事業者にとって参考になる

・措置期間は、症状や治療経過を踏まえ、上記の就業上の措置や配慮事項が有効であると考えられる期間を記載
・措置期間は、事業者にとって、次に主治医に意見を求めめる時期の目安になる

・労働者本人が主治医意見書の内容を理解・把握できるよう、労働者に対して内容をきちんと説明することが重要

患者氏名　〇〇〇〇
住所　〇〇県〇〇市〇〇町

復職に関する意見
糖尿病および非アルコール性脂肪肝に対する治療を継続し、健康を管理する。

業務の内容について職場で配慮することが望ましい。

復職可能

1. 糖尿病と肝硬変症後は4週ごとの通院をお願いします。なお、午前は午後まで通院を希望されます。
2. 肝性脳症は薬物療法が不可欠です。肝性脳症の回復には、薬物療法が不可欠です。肝性脳症の回復には、薬物療法が不可欠です。
3. 症状が安定して退院を取り扱うため、定期的に医師を確認する必要があります。
4. 規則的な食事をとることが肝硬変症後の生活習慣を維持する moet。また、薬物療法が不可欠です。
5. 1〜2週ごとに産業理診断を確認するのが望ましいです。

その他配慮事項

復職適性、体力が回復を確認するため、薬物療法が不可欠です。

上記の措置期間

〇〇〇〇年〇〇月〇〇日

上記内容を確認しました。
〇〇〇〇年〇〇月〇〇日

上記のとおり、職場復帰の可否等に関する

〇〇〇〇年〇〇月〇〇日

(注)この様式は、患者が症状を悪化させることなく用あるものです。この書類は、患者本人から会
### の意見を求める際の様式例（主治医意見書）の記載例

#### 事業者が確認する際のポイント

- 勤務情報提供書に記載した働き方によって退職が可能と考えられるかどうか、主治医の意見を確認

<table>
<thead>
<tr>
<th>生年月日</th>
<th>〇〇〇〇年〇〇月〇〇日</th>
</tr>
</thead>
</table>

**きる**

- 勤務情報提供書に記載した働き方によって退職が可能と考えられるかどうか、主治医の意見を確認

**主療医への質問事項に対する回答を確認**
- 記載事項について、対応が必要なのか、望ましいのかを確認
- 通勤方法や業務内容について、変更が必要なことがあれば対応を検討
- 肝性脳症が再発した場合の早期発見や安全確保のために、上司や同僚等の協力が必要な場合には、労働者本人の同意を得て、必要な範囲で情報を共有し、対応を検討

#### 採用、配置期間後は必要に応じてプランの見直しや主治医の意見の確認を行うことを想定

- 主治医意見書の内容について、労働者本人の理解・同意が得られていることを、署名欄を活用するなどして確認

#### ガイドラインで示された情報の取扱いに則り情報を取り扱う

- データの保護とプライバシーを確保するため、職場での対応を検討するために従社に提供され、プライバシーに十分配慮して管理されます。

<table>
<thead>
<tr>
<th>生年月日</th>
<th>〇〇〇〇年〇〇月〇〇日</th>
</tr>
</thead>
</table>

（本人署名） 〇〇〇〇

（主治医署名） 〇〇〇〇

治療と就労を両立できるよう、職場での対応を検討するために従社に提供され、プライバシーに十分配慮して管理されます。

お意見を提出します。

（主治医署名） 〇〇〇〇
事例 3（肝疾患）：職場

<table>
<thead>
<tr>
<th>従業員氏名</th>
<th>☐ ☐ ☐ ☐ ☐</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>所属</td>
<td>☐ ☐ ☐ ☐ ☐</td>
</tr>
</tbody>
</table>

治療・投薬等の状況、今後の予定

- 入院・自宅安静により病
- ☐ ☐ ☐ ☐ 年 ☐ ☐ 月 ☐ 日より
- 今後定期通院が必要。
  通院頻度：当面2週間
  通院時間：診察で半日、
  肝生検は再発の可能性

<table>
<thead>
<tr>
<th>期間</th>
<th>勤務時間</th>
<th>就業上の</th>
</tr>
</thead>
</table>
| 1〜2か月目 | 8：15〜17：00 (45分休憩) | ・残業、休日出勤、受診日確認、上司による指示順守。
      産業医や保健施設、休診、を確認する。
      業務内容：1か月目…担
      2か月目…担
| 3か月目以後 | 8：15〜17：00 (45分休憩) | ・配車・メンテナンス担当者の指示に基づき、病状の変動、入院
      ・病状の変動、入院
      ・通勤手段：自家用車からバス、勤務休憩、便所、業務内容、リフト運転、周囲に誰もいない環境で

業務内容

- 病状の変動、入院
- 通勤手段：自家用車からバス、勤務休憩、便所、業務内容、リフト運転、周囲に誰もいない環境で

その他就業上の配慮事項

- 同様の転職（転職後）
  - 債務は上司へ伝えること
  - 生甲府後は病状を告訴した状態

その他

- 本人：通院・服薬は主治医に連絡し、
  - 検査：1) 産業医と協力
  2) 通院・無断欠勤の
  3) その他が必要になった

上記内容について確認しました。

○ □
復帰支援プランの記載例

事業者が作成する際のポイント

- 主治医、産業医の意見を勘案し、労働者本人との話し合いも踏まえて職場復帰支援プランを作成
- 入院や治療の予定など、就業上の措置や配慮を行うために必要な情報を整理

1. 1か月目は時間外労働、休日出勤を禁止し、徐々に勤務時間を延ばし、業務負荷を増やすプランを設定
2. 上司による日々の体調確認や産業医面談についても明記。産業医面談は病院受診の間隔にあわせて設定

- 主治医意見書において避けるような指示のあったリフト運転、自家用車による通勤、夜勤、周囲に誰もいない環境での作業は行わないことを明記
- 肝性脳症が疑われる場合の対応など、同僚等の協力が必要な場合には、労働者本人の同意を得て、説明する内容・対象者を明記
- 本人や上司等が気を付けるべき事項があれば記載

関係者による協議・確認を終えた内容であること分かるよう、署名